<p>【議題】(1) 今年度のスケジュールについて</p>	<p>(事務局) 資料1「子ども・子育て会議及び検討部会 経過及び令和6年度スケジュール」により説明。</p> <p>(会長) 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。</p> <p>(質問等なし) ないようですので、次の説明をお願いします。</p>
<p>【議題】(2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗について</p>	<p>(事務局) 参考資料1「子ども・子育て支援法、市町村子ども・子育て支援事業計画について」説明。 資料2「第2期子ども・子育て支援事業計画 評価対象事業一覧・評価シート」により、事業担当課長から説明。 <幼児保育課長→子育て相談課長→子ども育成課長→子育て相談課長→学校教育主査→幼児保育課長→子ども育成課長→学校教育課主査></p> <p>資料3「重点的に進める取組み 事業実績調書」により、事業担当課長から説明。 <子ども育成課長→子育て相談課長→幼児保育課長→学校教育課主査></p> <p>(会長) 説明は終わりました。ご質問やご意見については、時間の都合上、次の議題3の説明のあとに、まとめてお伺いさせていただきます。 それでは、次に移ります。説明をお願いします。</p>
<p>【議題】(3) 第3期半田市子ども・子育て支援事業計画第2期子ども・子育て支援事業計画各事業の「量の見込み」・「確保の方策」について</p>	<p>(事務局) 参考資料2「資料4の見方について」説明。 資料4「量の見込み及び確保の方策について(案)」について、各事業の担当課長から説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (1) 学校教育課主査 (2) (3) (4) (5) 幼児保育課長 2 (1) 幼児保育課長 (2) 子ども育成課長 (3) 子育て相談課長 (4) 子ども育成課長 (5) 一時預かり事業(幼稚園型) 学校教育課主査 (幼稚園型以外) 幼児保育課長 (6) 幼児保育課長 (7) 子ども育成課長 (8) (9) (10) 子育て相談課長 (11) 学校教育課主査

(会長)

説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。

事務局からの説明は、1つ目はこれまでの5年間の振り返り、どんな動きがあったのかということ、そして2つ目はこれからどうしていくかということでした。議題1で説明のあったスケジュールでは、6月14日(金)に検討部会を開催して、第3期計画の骨子案を検討するようですので、とくに今後、どのようなことを実施していったらほしいかといったご意見がありましたら、ぜひお聞かせください。

(委員)

資料4について、量の見込みの設定について、ニーズ調査で算出された数値と実績に大きく差がありますが、原因はわかりますか。

(事務局)

ニーズ調査では潜在的なニーズを含めて量の見込みを把握することになっており、設問形式や算出方法により、実情と乖離してしまうのではないかと推測しています。潜在的なニーズを把握することの難しさを感じています。

(事務局)

補足ですが、サービスを使いたいという希望はあるものの、実際に利用する場面では、様々な条件で使えない場合があり、実績のほうが低い数値となるのではないかと考えています。

(委員)

初めてこの会議に参加して、多くの事業を実施しているということがわかりました。一方でニーズというところも大切だと思いますが、それ以前に生まれた子が何人いるのかといったところから考えていくことも必要ではないかと感じました。

ニーズというのは、どのような調査をしたのですか。

(事務局)

就学前のお子さんがいらっしゃる方1,000人、小学生のお子さんがいらっしゃる方1,000人にアンケート調査を行いました。

(委員)

多様化する保育ニーズに対応するという方向性を示していますが、現在の制度では、出産に伴って産前産後8週間で、例えば上のお子さんが保育園に3歳児未満で通っていた場合、産後8週間で退園することになりますと思いますが、そのあたりのサポートについてはどのように考えていますか。

(事務局)

現状、本市における3歳未満のお子さんの受け入れについては、待機児童が発生している状況です。育休の取得により退園せず、継続利用できることが望ましいとは思いますが、できるかぎり多くの方にご利用していた

だけるよう、現在の制度運用をしていることにつきましてご理解いただけたらと思います。

(委員)

大府市では、今年度からお子さんが8か月を迎えるタイミングで家庭訪問をするということが新聞に掲載されていました。児童センターに来館されるお母さんで、出産してからこどもが1歳ぐらいの時期に、産後うつになっているような方もいらっしゃいます。そうした状態で、上の子が年子であったり双子であったりした場合、さらに育児への不安を強く感じる、そうした一番助けてほしい時期に手厚くサポートできる体制があるといいなと思います。

(事務局)

一時保育については数日しか利用できませんが、今年度から、私的保育サービスの利用可能日数を1か月につき5日以内に拡充しました。一時保育事業では、事業の種別が3つあるため利用方法によって半月程度はお子さんを預けることができます。また、地域子育て支援拠点の相談事業等、その他の事業を総合的に利用していただくなかで対応していきたいと考えています。

(事務局)

半田市では、令和5年度から産後2週間から1か月ごろの産婦に対して「健やかベビー応援コール」という名称で、助産師が電話で母子の体調確認や育児に関する相談等を行っています。また、助産師による新生児等の訪問や産後ケア事業を実施して育児不安軽減に努めています。

(会長)

その他ありませんか。

第3期の計画を考えるうえで、これまで子育てをしてきて大変だった経験から事業を改善していけると、数年後の子育て家庭のみなさんが少し楽になるように思います。親としての視点でご意見はありませんか。

(委員)

今回のアンケート調査の対象になり、実際に設問に答えながら感じたのが、「日頃お子さんを見てもらえる親族、知人の有無」の質問に対して、私は「いる」と答えましたが、実際には、自分の母親が仕事で預けることができなかつたりします。病児保育についても利用はしたいけど1か所しかないなので、そこに預けに行くのは大変だなと思いました。

私の子どもも2歳差だったので、上の子どもを保育園に預けられなくて大変でした。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。少子化対策という意味でも2人目、3人目のお子さんのことを考えると、今のご指摘は重要なポイントのように感じました。

(委員)

幼稚園では、みなさん専業主婦というわけではなく、パートで働いてる方が多いです。そうしたなか、夏休みのような長期休暇は大変です。さらに自分が一番大変だなと感じたのは、卒園してから4月の小学校入学までの期間は預ける場所がなく、働きません。また、入園してから1か月ぐらい行けない時期がありましたが、子どもの状態にもよりますが、預けられる子だったらそういった環境があるといいなと思いました。

1回預けると大丈夫ですが、子どもの様子や、現場の環境、利用料の問題など、事業を利用したいとは思いますが、最初の一步を踏み出すのが難しかったりします。

(事務局)

幼稚園については、長期休暇への対応として、令和5年度から夏休みの一時預かりを開始しました。一方で、職員の配置については課題があります。そうしたなかで、令和7年度から春休みや冬休みにも預かりができるよう準備をしているところです。また、親の負担を減らすというところで、学校給食センターが新しくオープンすることに伴い、来年度4月から幼稚園でも毎日給食が食べられるようになります。

(委員)

保育園で19時30分まで預けることができると説明がありましたが、これは国が決めるのですか。それとも半田市が決めるのですか。

(事務局)

19時30分まで預かることができるのは、現在、にじいろ保育園花園の1か所です。市では、保育園を民営化する際、19時までは保育ができるよう仕様に記載して募集するようにしています。

(委員)

19時30分までの開所時間を提案したのは、事業者のほうです。

(委員)

赤ちゃん訪問をしていて感じるのは、生後2ヶ月ぐらいの時期にお母さんが一番眠れない、育児にもまだ慣れていないときにお父さんも一緒に育児休暇を取っていると、訪問したときにすごく家庭の雰囲気が温かいというか、すごくよくわかるので、お父さんも育児休業を取れる体制をつくっていくことが大切だなと感じています。

(委員)

説明を聞いていて、多くの事業をやってくださっていていいなと思いましたが、一方で、子育て中の家庭の方に周知ができていないと感じます。例えば、一時保育についても、どこでやっているのか、よく聞かれますし、病児保育については、インターネットで情報を発信しますが、利用するための手続きの面で使いづらいという声をよく耳にします。

情報提供の方法について、必要な方に直接届くようにしていただけたらと思います。

(事務局)

病児保育については、ご指摘のとおり事前に病院で診療情報提供書を作成していただくことが必要です。

病児保育事業については、国の示す実施方法に従う必要があるため事前に病院を受診する手続きをなくすることができないのが現状です。

また、情報発信につきましては、例えば公立の保育園に通っている保護者の方にはコドモンという登園管理システムで直接情報を届けるようにしています。また、半田市の公式 LINE でも情報を発信しています。様々なアプリやサイトがあるなかで、みなさんに情報を届ける難しさはありますが、今後も効果的な情報提供に努めていきます。

(委員)

補足ですが、私は3月までデジタル課という部署にいました。インターネットを通じて情報を発信するという点では、半田市の公式 LINE で子育て情報を充実させていこうと取り組んでいます。ぜひ登録をしていただきたいと考えています。現時点では、17,000～18,000人の登録数ですのでこれから広めていきたいと考えています。その他、はんだっこネットという子育て情報のポータルサイトやOYAC Oplus という母子手帳アプリでマイナンバーと連携させたサービスも提供していますので、様々な機会を通じてPRしていきたいと考えています。

(委員)

半田市では、子どもの出生数はどのような状況ですか。

(事務局)

昨年度は、724人（日本人695人、外国人29人）でした。15年ほど前は、1,000人でしたが減少傾向が続いています。

(会長)

そうした状況も把握しながら、2人目、3人目を産んで育てる、また、結婚していただくといったところも含めて対策を検討していく必要があると感じました。

(委員)

婚姻数はどうなっていますか。

(事務局)

婚姻数については、今、手元資料になく、お答えできません。

※半田市の婚姻率の推移

婚姻率：人口千人に対する婚姻件数の割合。

(R1：5.0、R2：4.3、R3：3.9、R4：3.8)

令和元年度から減少傾向

愛知県（参考）

(R1：5.3、R2：4.7、R3：4.5、R4：4.6)

資料：愛知県衛生年報、愛知県人口動態統計

	<p>(会長)</p> <p>半田市は、名古屋市で働く人にとっては住むのにちょうどいい距離にあるように思います。住宅支援といったことも含めて住んでもらうためにどうしたらいいかという視点で考えることも大切かと感じました。</p> <p>他にありませんか。</p> <p>ないようですので、本日予定された議事はすべて終了しました。皆様のご協力によりスムーズに議事進行できましたことをお礼申し上げます。</p> <p>進行を事務局へお返しします</p>
	<p>(事務局)</p> <p>末盛先生、ありがとうございました。</p> <p>また、委員の皆様、長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>最後になりますが、次回の会議は8月6日（火）、午後2時から庁議室で開催を予定させていただきます。後日、あらためてご案内を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p> <p>これを持ちまして、会議を閉会させていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
	<p>(終了)</p>